

編集後記

「新潟の教育情報」第五号の編集が終りました。第二巻第一号です。

いわゆる「三号雑誌」に終わらず続けることができることは本当にありがたいことです。今更のように執筆者、読者、支援してくださる方々に対する感謝の念を新たにしております。執筆してくださる方々も教師だけでなく多彩になりました。今回も、ジャーナリスト、大学、高校、中学校、小学校、学習塾の先生、退職された校長先生、教頭先生……多くの方々が執筆して下さいました。財政不如意のため、当誌二冊をもって稿料にかえさせて頂きたいとご容赦願っているのですが、感謝にたえません。

教師に対する不信をよく耳にします。教師不信は教育に無関心ではなく、教師に期待しているからだと思われまます。第五号では、各界の方々から教師に対する期待をかいていただきました。胸をうつものがあります。何度も読みかえしてみたいものです。

この冬も豪雪でした。大雪は二年続かない。災害は忘れたころにやってくるといわれていますが、二年続か、忘れないうちにやってきました。

臨教審も忘れないうちに次々にいろいろな方針を出してきます。気をゆるめてはならない。そんなことを考えさせられた冬でした。(若月又次郎)

☆歩くことが困難なほど、道路の両側にあった壁のような雪も、連日の暖かさで、すっかり消えてしまっています。豪雪地帯と言われている地域では、まだまだ雪が多いようです。

☆「干潟小学校統廃合問題」は、第二回の公判を終え、新たな局面にさしかかっています。

☆全県的な支援組織(県民の会)が一月十九日に結成され、県教委及び小出町教委への要請行動をはじめとしたとりくみがなされてきています。

地域住民を全く無視する一方的なやり方で、そして、子どもの発達を真に考えないやり方で、進めてきた町当局の姿勢を、認めることは絶対できません。

「教育情報の第六号」では、この干潟問題について考える場をもちたいと考えております。

☆教育基本法第一条「教育は人格の完成をめざし……」が、今ほど、重く感じられる時はありません。

大田講演をくり返し読んでみて、

そして、座談会での先生方の意見を読んでみて、そう思わさせられました。自分の実践が、「教育は人格の完成をめざし……」という「人間を人間らしく」育てる方向でしっかりと展開されていたのかと。

もう一度原点から考えてみたい。(佐藤 賢)

にいがた県民教育研究所

会長	長崎 明
副会長	坂東 克彦
常任理事	八木 三男
	足立 定夫
	足沢 三郎
	関川 智子
	高山 怜
	沼波 貞夫
	本間 藤四郎
	阿部 好策
	小熊 隆
	片岡 弘
	亀山 淳
	川合 章
	菊崎 威
	小森 唯一
	斎藤 浩志
	坂下 邦彦
	佐藤 郁子
	須田 一彦

監事	大塚 勇	関原 勝司
	吉田 三男	高橋 武昌
	宮本 敏	高橋 武昌
	八木 嘉昭	津幡 龍峰
	丸山 正寿	中野 芳彦
	本間 勝	本間 勝
	若月 又次郎	若月 又次郎
	磯野 修二	磯野 修二
	片岡 弘	片岡 弘
	木村 隆利	木村 隆利
	小林 光子	小林 光子
	坂本 典子	坂本 典子
	佐藤 賢	佐藤 賢
	須田 一彦	須田 一彦
	丸山 喬子	丸山 喬子
	八木 三男	八木 三男
	山崎 徹	山崎 徹
	木村 隆利	木村 隆利
	若月 又次郎	若月 又次郎
	佐藤 賢	佐藤 賢

事務所
新潟市東中通一八六
山崎ビル二階
TEL 〇二五二一 二八一 二九二四